

研究・調査報告書

報告書番号	担当
187	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Gender-related influences of parental alcoholism on the prevalence of psychiatric illnesses: analysis of the National Epidemiologic Survey on Alcohol and Related Conditions. 親のアルコール依存症が子の精神疾患有病率に与える影響の性差:National Epidemiological Survey on Alcohol and Related Conditions	
執筆者	
Morgan PT, Desai RA, Potenza MN.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Alcohol Clin Exp Res. 2010 Oct;34(10):1759-67.	
キーワード	
アルコール依存症、性差、精神疾患、親がアルコール依存症の子	
要 旨	
背景： アルコール依存症者の子孫は、精神疾患のリスクが高い。しかしこのリスクに性差が影響するかどうかはあまり知られていない。そこで本研究では、アルコール依存症である親の性別とその子の性別が、親のアルコール依存症と子の精神疾患との関係に影響を与えるか、という仮説を検証した。	
方法： 我々は、National Epidemiological Survey on Alcohol and Related Conditions (NESARC) のデータを用いて、父方または母方のアルコール依存症既往の有無別に、23006人の男性と17368人の女性において axis I および axis II の性別有病率を調査した。調整オッズ比は、性別、母親や父親のアルコール依存症の有無に基づいて算出した。	
結果： 子の性別に関係なく、母親や父親のアルコール依存症は、調査したすべての精神疾患において高い有病率と関連していた。性別有病率の差異は、調査したほぼすべての精神疾患に存在していた。親のアルコール依存症と子の精神疾患との関連は、男女間で有意に異なっていた。とりわけ以下において強い関連が認められた: アルコール依存症 (依存なしのアルコール乱用)男性を親に持つ女性 ;アルコール依存症 (マニア、ニコチン依存、アルコール乱用、および分裂病質人格障害) の女性を親に持つ女性; アルコール依存症 (マニア) の男性を親に持つ男性; アルコール依存症 (パニック障害) の女性を親に持つ男性。	
結論： 性別と親のアルコール依存症との交互作用は特定の疾患に固有ではあるものの、その影響は様々であり、また概して、アルコール依存症の女性を親に持つ女性では、精神疾患のリスクが高めであった。	